

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年4月6日 火曜日

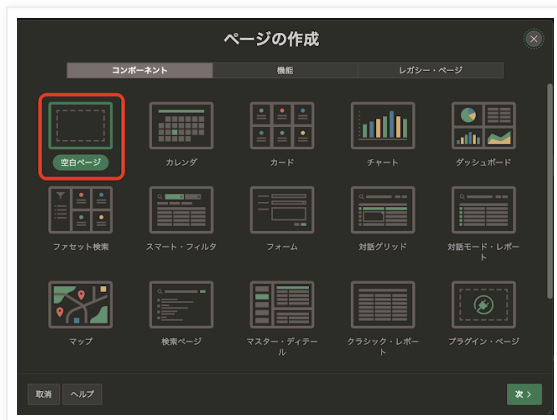
## APEXからオブジェクト・ストレージをPL/SQL SDKで操作する (4) - ダウンロードの実装

オブジェクトのダウンロードは独立したページに実装します。

ページの作成を実行します。



空白ページを選択します。



名前をdownload、ページ・モードは標準を選択します。ナビゲーションのブラッドクラムの使用、ナビゲーションの使用はともにOFFとします。

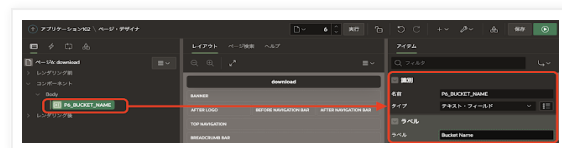
ページの作成をクリックします。



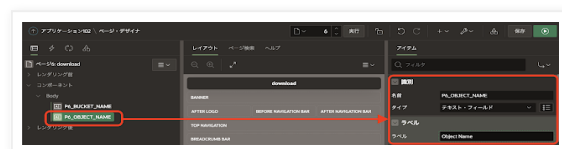
作成されたページに、ダウンロードするオブジェクトを決める引数となるページ・アイテムを作成します。

ページ・アイテムP6\_BUCKET\_NAMEを作成します。タイプはテキスト・フィールド、ラベルはBucket Nameとしています。

実際にはdownloadのページは表示されないため、タイプは非表示や表示のみでも構いません。

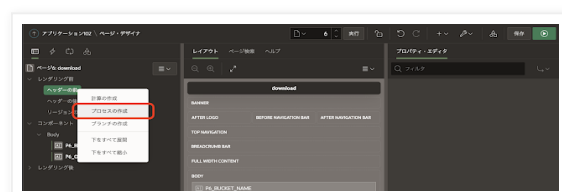


同様にページ・アイテムP6\_OBJECT\_NAMEも作成します。



引数となるページ・アイテムを作成をしたので、実際にダウンロードを行うプロセスを作成します。

ヘッダーの前の上でコンテキスト・メニューを表示させ、プロセスの作成を実行します。



作成されたプロセスの識別の名前をdownloadとし、ソースのPL/SQLコードに以下を記述します。

```
declare
    l_response dbms_cloud_oci_obs_object_storage_get_object_response_t;
    l_status_code number;
    l_blob blob;
    l_object_name varchar2(4000);
    plsqli_sdk_error exception;
```

```

-- 日本語に対応させる
function cs_workaround(str varchar2)
return varchar2
as
begin
    return utl_url.escape(str, false, 'AL32UTF8');
end cs_workaround;

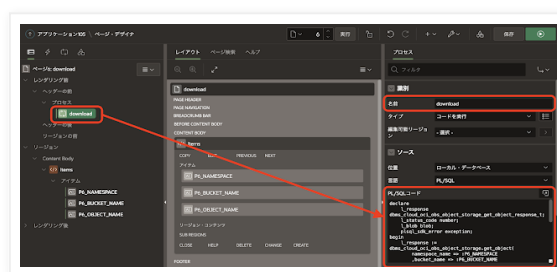
begin
    l_object_name := cs_workaround(:P6_OBJECT_NAME);
    l_response := dbms_cloud_oci_obs_object_storage.get_object(
        namespace_name => :G_NAMESPACE_NAME
        ,bucket_name => :P6_BUCKET_NAME
        ,object_name => l_object_name
        ,region => :G_REGION
        ,credential_name => :G_CREDENTIAL_NAME
    );
    l_status_code := l_response.status_code;
    if l_status_code != 200 then
        raise plsql_sdk_error;
    end if;
    l_blob := l_response.response_body;
    sys.http.init;
    sys.http.p('Content-Length: ' || dbms_lob.getlength(l_blob));
    sys.http.p('Content-Disposition: attachment; filename="' || l_object_name || '"');
    sys.owa_util.http_header_close;
    sys.wpg_docload.download_file(l_blob);
    apex_application.stop_apex_engine;
end;

```

download.sql hosted with ❤ by GitHub

[view raw](#)

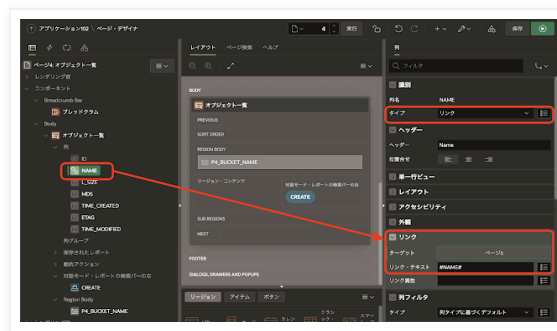
DBMS\_CLOUD\_OCI\_OBS\_OBJECT\_STORAGE.GET\_OBJECTを呼び出してBLOBとしてAPEX(データベース)で受け取ったデータを、WPG\_DOCLOAD.DOWNLOAD\_FILEプロシージャを呼び出すことによってAPEXからブラウザにダウンロードしています。



一旦オブジェクト全体をデータベースで保持する形になるため、巨大なファイルの扱いには注意が必要と思われます。きちんと調べていませんが、多分、最低でもファイルのサイズ分だけPGAが消費されるのではないのでしょうか。

最後にオブジェクト一覧のレポートから、オブジェクト名をクリックするとダウンロードが開始するようにリンクを設定します。

オブジェクト一覧のページをページ・デザイナーで開きます。対話モード・レポートに含まれる列NAMEを選択し、タイプをリンクに変更します。ターゲットとして先程作成したダウンロードを行うページ、リンク・テキストは#NAME#とします。



ターゲットとして、タイプはこのアプリケーションのページ、ページは6（ダウンロードのページ）、アイテムの設定として、P6\_BUCKET\_NAMEへはカレント・ページより &P4\_BUCKET\_NAME.、P6\_OBJECT\_NAMEには列#NAME#を渡します。OKをクリックします。



以上でダウンロードの機能も実装完了です。オブジェクト一覧画面を表示し、動作を確認します。



列Nameのリンクをクリックすることにより、オブジェクト・ストレージからダウンロードができます。



以上でPL/SQL SDKを使ってオブジェクト・ストレージを操作するアプリケーションは完成です。オブジェクト・ストレージの操作に直接は関係しない設定は、記事が長くなるため除外しています。ですので、アプリケーションを実用レベルにあげるには、それらも調整する必要がありますでしょう。

今回作成したアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/oci-object-storage-manager.zip>

Oracle APEXのアプリケーション開発の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 0:25

共有

---

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

**Yuji N.**

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---